

# 美術科

## 美術科研究主題

### 学びを広げる美術科の授業づくり

**公開授業** 学級：1年4組 授業者：砂山 涼子

#### 単元名：墨と水の出会い

#### 授業の見どころ① 試行錯誤から発想を広げる

水墨画は、ほかの絵画と異なり複数の絵の具を使わない墨一色の表現です。それ故、濃淡や筆遣いなどから私たちに様々なイメージや印象を与えます。言い換えると、複数の絵の具を使わないことで、どの生徒も濃淡や筆遣いなどの違いに、いつもより敏感に注目することになると考えています。

墨や水の使い方によって、多彩な表現ができることをふまえた上で、実際に筆や様々な描画材を用いて数多く試し描きをします。墨と水という2つの材料にのみ焦点をあてるからこそ、何度も容易に試し描きができます。

思うまま十分に試し描きすることで生まれる気づきや発想を、体全体を使って試行錯誤しながら表現します。この一連のAARサイクル（構想し、試し描き、自分なりのイメージと比較する）を通して、自分なりのイメージを表現し、作品制作を充実させたいと思います。

#### 授業の見どころ② 対話活動から発想を広げる

本時の授業は、前時で試し描きしたものをグループ内で紹介し合う場面からスタートします。どの画材を使ってどのように墨と水を工夫してみたのか、またどんなふうに見えるのか、お互いに意見を交換させます。対話を通じて、作品制作や表現に関する問題解決のアイデアを共有し合うことで、実際の制作プロセスに役立つ知識や技術を得ることを期待しています。

また、いいなと感じた表現を自分でも試してみたり、自分とは違った視点に新たな気づきを得たりすることで、多様な視点を取り入れる機会とします。対話活動を経て、再度試し描きをするなど、AARサイクルを回すことで、生徒自身の創造力をさらに引き出したいと考えています。